

2025 年度 中国支部集会 開催報告

主 催：公益社団法人日本語教育学会  
開 催 日：2026 年 2 月 22 日（日）16:30~19:05  
会 場：オンライン  
参加人数：32 名（会員 28 名，一般 4 名）

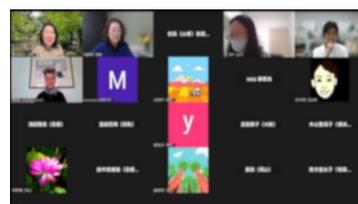
今年度の中国支部の支部集会は、オンラインで開催され、口頭発表 1 件を行った後、講演会を行うという構成で行いました。

口頭発表では、筑波大学大学院生のダダエヴァ マイサ氏により「トルクメン人大学生の外国語習得分析 ―複言語環境でのロシア語を対象として―」という題目の発表が行われました。質疑応答では、複言語環境での言語習得について、学習者の専門的背景、学習動機、生活上の背景に関連する質問等の他、複言語・複文化環境をどう捉えるかといった様々な角度からの質問が出され、有意義な議論となりました。

後半の講演では、早稲田大学大学院日本語教育研究科の李在鎬氏に「生成 AI で深まる言語教育」という演題でご講演いただきました。講演では生成 AI の歴史的な背景、そして AI の発達に伴う教育機関の向き合い方の変化が紹介されました。その上で、教育活動にいかに関活用されているかを事例やワークを通して、ご説明くださいました。

参加者からは、日ごろの実践あるいは学習者と向き合う中で生じた悩みや疑問など、様々な質問が出され、活発な議論になりました。その中で、李在鎬氏が語られた「たくましい知性を大切にする」「学習に対して、自らが責任を持つ学習者になる」「自分のことばをつくる」といった言葉が印象に残りました。

李在鎬氏は、今回、ドイツからご講演くださいました。オンライン会議ツールの普及がなければ実現できませんでした。AI も、ツールとしていかに使っていくか。AI があるのが当たり前前の学習環境となっていく中で、私たちが向き合っていかなければならない課題であると感じました。



【講演会の様子】

事後アンケートには参加者の半数近くの方からご回答いただき、自由記述欄の講演に対するコメントからは、生成 AI を前提とした日本語教育への関心の高さがうかがえました。本講演を通して、「自身の授業を振り返る機会となった」、「AI の利用法やそれと向き合う姿勢について今後の指針が得られた」等の声が寄せられました。オンライン開催だったから参加できたというコメントも複数あり、この形態での集会等の開催を継続する意義もうかがえました。

今回の支部集会には、前述の通りドイツからご講演くださった李在鎬先生はじめ、中国地方に限らず全国各地からも多くご参加いただきました。関係者の皆様方にも多大なるご協力をいただきましたこと、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

（報告者：中国支部活動運営委員：犬飼康弘・中園博美）